

平成30年 網走市議会
地方創生総合戦略検討特別委員会会議録
平成30年11月28日(水曜日)

○日時 平成30年11月28日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P Iの達成状況について
2. 地方創生総合戦略検討特別委員会の最終報告について

○出席委員(9名)

委員長	平賀貴幸
副委員長	井戸達也
委員	金兵智則
	栗田政男
	近藤憲治
	立崎聡一
	永本浩子
	松浦敏司
	山田庫司郎

○欠席委員(0名)

○委員外議員(1名)

副議長	渡部眞美
-----	------

○説明者

副市長	川田昌弘
企画総務部長	岩永雅浩
企画調整課長	秋葉孝博

○事務局職員

事務局長	大島昌之
総務議事係長	高畑公朋
総務議事主事	金川由樹

午前10時00分開会

○平賀貴幸委員長 おはようございます。

ただいまから地方創生総合戦略検討特別委員会を開会いたします。

本日の案件を協議する前に、1点ご連絡を申し上げます。

本委員会の委員についてであります。

平成30年11月9日付けにて田島議員が議員辞職をいたしましたので、本委員会の委員も辞任となりました。その後任として、委員会条例第6条の規定に基づき、本会議閉会中であることから、議長が山田庫司郎委員を指名しましたので、御報告をいたします。

それでは、本日の進め方でございますが、まず、議件の1番目において理事者の方からK P Iの達成状況について御説明をいただき、説明事項について協議をいたします。

続いて議件の2番目、当委員会の最終報告についてであります。

平成27年7月1日に設置された当委員会ですが、当委員会も我々議員の任期に合わせて閉じることとなります。つきましては、委員会を閉じるに当たり、本会議において最終報告をする必要がございますので、委員の皆さんから最終取りまとめということで、総括的なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議件の1番目について、まず理事者の説明を求めます。

網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P Iの達成状況についてであります。

○秋葉企画調整課長 それでは、資料1をごらん願います。

網走市まち・ひと・しごと総合戦略におけるK P Iの達成状況につきまして、御説明させていただきます。

総合戦略は平成31年度までの5年間の計画期間でございまして、今回数値を確認したものは、平成29年度となり黄色で着色しており、このうち、本日、御説明させていただく項目は数値の増減が見られた主な項目でございまして、左側に水色で着色しております。

また、右から2列目には、先に開催しました網走市選挙する未来会議における質疑などを参考までに記載しておりますので、あわせてごらん願います。

それでは初めに、基本目標1、若い世代を中心として、安心して働くための産業振興と雇用の場の創出でございます。

項目は、中心市街地の通行者数、平日と休日でご

ございます。平成29年度の数值は、平日が2,404人、休日が1,856人で、いずれも減少傾向となっております。ラルズ跡地を活用した、イベントの開催などに取り組んでいるところでございますが、平成29年度の調査日が雨天ということもあり、減少の要因と考えております。

次にその下、HACCP認定施設の保有企業数下段のサケ製品ですが、新たに2社が認定を取得し、3社となっております。

次に、農産物の海外輸出でございますが、初めにナガイモです。輸出量、金額ともに減少しておりますが、これは台風や長雨の影響により、生産量が減少したことが主な要因と聞いております。

その他の農産物では、大根を台湾とシンガポールへ2.6トン輸出しております。輸出量、金額ともに多くありませんが、今後、拡大を図っていく予定であると聞きしております。

次に、網走港の取扱貨物でございますが、量・金額ともに減少しております。これは製糖工場で利用する石炭の輸入量の減少が要因でございます。

次に、企業誘致件数でございますが、前年から1件増の2件となっております。これは能取工業団地に誘致いたしましたバイオマス発電所の建設によるものでございます。

その下の雇用数につきましては、平成30年度から計上される見込みとなっております。

次に、シルバー人材センターの会員数ですが、347人となっております。やや減少傾向となっております。

その下、市と商工会議所が支援した起業・創業数は29社で、前年に比べ12社の増となっております。主な業種は、飲食店、エステなど、サービス業となっております。

次に、基本目標2、観光や健康・スポーツなど網走の地域特性を生かした交流人口の拡大です。

初めに、観光入り込み客数は162万人。

その下、宿泊客数は38万5,000人で両指標とも増加しております。主な要因は、ゴールデンウィークの日並びや天候に恵まれたこと、また、道外からの個人客や周遊型旅行商品の利用者、さらにスポーツ合宿が増加したことによるものでございます。

その下、天都山周辺施設の入り込み客数は、45万4,000人となっております。主な要因は、博物館網走監獄の入館者の増で、前年比では115%となっております。

その下、スポーツ合宿の参加人数は1,985人で前年比111%となっております。合宿団体数では69団体、前年に比べ11団体の増となっております。

その下、芸術文化合宿の参加人数は96人で前年に比べやや減少しております。

その下、合宿及びスポーツ・ツーリズムによる経済波及効果は7億8,436万円となっております。増加の要因は、スポーツ合宿の参加者数の増及びオホーツク網走マラソンの参加者の増によるものでございます。

最後の行になります。

外国人宿泊客数は4万1,000人となっております。アジアや欧米諸国からの宿泊者が堅調に推移しており、過去最高を更新している状況でございます。

1枚めくっていただきまして、基本目標3、若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくりです。

項目は、合計特殊出生率ですが1.60となっております。前年に比べ上昇しております。当市の人口規模では、さまざまな要因の影響を受けますので、なかなか同所の分析というのは困難でございますが、市といたしましては妊婦健診や不妊治療の支援、相談事業の充実、子供の医療費無料化など子育て世代の経済的、精神的負担の軽減に努めているところでございます。

次に、基本目標4、東京農業大学、日本体育大学などと連携し、みずから学び「明日をひらくひと」の育成でございます。

項目は、学力調査の全国平均との差及び体力調査の全国平均との差についてです。いずれも全国平均を下回る状況となっておりますが、基準値、基準年である平成26年度と比較いたしますと、改善傾向にあると考えているところです。

その下、日本体育大学附属高等支援学校の開校に伴う雇用創出数は、平成29年4月の開校により、教職員は25名、その他職員は19名と前年に比べ増加しております。

次に、読書が好きな児童生徒の割合ですが、小学生が58.7%、中学生が60.5%となっております。いずれも前年より減少している状況です。

その下、子供の学習の場の参加者数ですが、844人と前年に比べ増加しております。主な要因は、市民ボランティアによる教室、ロセトクラブへの参加者数がふえていることによります。

その下、市民対象講座の参加者数も3,249人と、

前年と比べ増加しており、これは美術館45周年記念事業として開催されました安彦良和原画展の解説会への来場者が多かったことが主な要因でございます。

1枚めくっていただきまして、基本目標5、支え合い、安心して暮らすことのできる共生型地域社会づくりです。

初めに橋梁補強と浸水対策の完了率ですが、橋梁補強は、山下歩道橋の工事の完了により完了率が上昇しており、浸水対策につきましても、計画的に整備を進めておりますので、完了率が改善しております。

次に、特定健康診査受診率ですが、現在、健康マイレージ事業など受診勧奨に取り組んでいるところでございますが、22.8%と減少傾向にあります。

最後に、空き家バンクの登録数ですが、23件となっており、前年に比べ減少しております。これは登録物件の売買、それから解体などにより登録が抹消となったものです。

以上で説明を終わらせていただきます。

○平賀貴幸委員長 それでは質疑に入ります。

○近藤憲治委員 1点伺いをいたします。

さまざまな施策に取り組んでいただいて成果が上がっているもの、一部進捗がなかなか思わしくないもの等々あるというものは、今の御報告を伺って把握をさせていただきました。

そういう点ではしっかり進めていただいている、着実な歩みを実感させていただいたところなのですけれども、この総合戦略の一番の肝である人口減少社会に向き合うという点で、人口減少の要因である自然減はこれまでの人口動態から、いたしかたがないにしろ、社会減の抑制の部分で、この総合戦略の進捗がどの程度の効果を上げているか、またはなかなかそこまで踏み切れないか、どういう認識をお持ちなのか伺いしたいと思います。

○秋葉企画調整課長 総括的なお話になりますが、この総合戦略につきましても、全国で地方が計画を定めまして、当然、国も対策本部を置きまして進めているところですが、まず一つ大きくは東京の一極集中、これを是正するというところに大きな課題を掲げて全国で今取り組んでいるところですが、当初、10万人が年間東京に流入人口として超過しているということがありまして、現在の状況でいくと12万人ということで、逆に年間の転入超過が今現在もふえているという状況です。

非常にですね、この件に関してはなかなか改善というのは全国で取り組んでもなお、なかなか改善が見られなくて、逆に目指すところよりその目標から遠ざかるようなことも、多々、そういったことが見受けられているのが現状でございます。

いずれにいたしましても、次期総合戦略の策定に向けて、また行動に向けてもですね、さまざまなKPI、今、委員おっしゃったとおり達成できているもの、そういった傾向が見られるもの、なかなか困難で達成ができないもの、総括をしながらですね、また新たな取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

○近藤憲治委員 全体の動向からしても、社会減の抑制というのはなかなか明確な効果というのはまだ見出せていないという点では、認識がともにできているというふうに確認させていただきましたので、理解をさせていただきました。

ありがとうございます。

○永本浩子委員 すいません、先ほどの説明のときに中心市街地の通行者数、平日と休日ということで数値が出ていまして、先ほど調査日が雨天だったことが大きく影響しているのではないかと御説明があったのですが、この通行車両のはかり方というのは、1日だけの人数というはかり方しているのでしょうか、それともどういうはかり方でこの数字が出ているのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 まず、基準日でございますが、10月の最終週を設定しておりまして、日にちは若干ずれるのですが、最終の日曜日、29年の調査でいきますと10月の28日が日曜日になりますが、この日の通行量調査です。

翌日の月曜日が平日に当たりますので、29日に平日の通行量調査をですね、具体的にはアルバイトを雇って通行量調査するという、手でカウントしているという状況でございます。

おおむね、毎年その決まった時期にということがあるものですから、この10月の末に向けて調査を実施しておりまして、この29年度につきましても、台風等の影響もあって、通行量が非常に少なかったというふうに認識をしているところでございます。

○永本浩子委員 そういう10月の最終週の日・月というのがあるのかもしれないですが、やはり台風があると人出が少なくなるのは当たり前のことで、そういった数値で比較していくということ自体が、ちょっと違うのではないかと思います。

も、そこら辺の融通を利かせるというのはなかなか難しいのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 はい、おっしゃるとおり変更するというのも一つ手段としてあるのですけれども、逆にずらしてイベントがありますと、当然、通行量が一気にふえるということがありますので、イベントがちょうどない時期を狙って、毎年同じ月末というところの基準でやっています。

逆にこれが11月に入るとですね、また11月のイベント等に重なって通行量がまた変化しますので、29年度につきましては、実施した結果として、こうした数値になったということなのです。

例えばなのですけれども、台風にもいろいろケースがありまして、外出できないような、そんな状況になれば当然それは実施しないということになりますが、この際はそこまではいかなかったというような状況ですので、今回はこの数値として捉えています。

今後につきましては、被害が出るような状況でそうしたことでできませんので、その辺は十分考えながら実施しますが、基本的には雨、雨天ですとか天候によってやるやらないの判断は、影響なくやっていきたいというふうに考えています。

○永本浩子委員 そういういろいろな事情とかあるとは思いますが、これが29年度の数値で今年度の数値が今度出て、平成31年の目標値には、それでも全くはるかに遠いのではないかと思いますので、何かそれに対する対策というのは市としてはあるのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 今の前段の説明の中で、ラルズ跡地のイベントなどの紹介をさせていただきました。

そのような取り組み、それからイベントがないときの通行量が減っている傾向にあるというのは、これは間違いのない事実ですので、こうした点を踏まえて毎年度の予算編成、さらには中期的な計画になりますので総括をしながら、次の施策を考えていきたいというふうと考えており、現時点では、中心市街地のラルズ後の取り組みですとか、今年度行っていることを取り組んでいますけれども、さらにどういうことができるかということ、中期的に考えて新しい施策の検討をしていきたいというふうと考えております。

○永本浩子委員 ラルス跡地を活用しているいろんなイベントというのが出てまして、そのときは本当に結

構人が出ているなど私も思うのですけれども、この測定出すイベントのないときということ測定をしているわけで、そういったラルズ跡地を活用したいいろんなイベントを対策として考えているのであれば、その対策をしたことによるその成果というのは、イベントのないときに測定をするということだけだと、数値としてはなかなかあられづらいいのではないかと思いますのですけれども、その点はどのようなのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 イベントをやると、集客があつて人が流れるということは、これは事実なのですけれども根本的にはですね、中心市街地ににぎわいを取り戻すということが目的でございますので、イベント等で訪れた方が、また中心市街地に足を運んでいただけるようにすることが大事だと思っておりますので、イベントの来訪客数をKPIに設定しますと、そのときだけ人が来るということになりますので、基本的にこのKPIはちょっと、次期計画はこれがどうなるかわからないのですが、一つの指標としては、市としては押さえておく必要があるというふうには考えております。

○永本浩子委員 お考えはよくわかりました。

ただ多分、ラルズ跡地でイベントをやるだけでは、基本的にはこの目標値には多分はるかに届かないのではないかなという、本当にもうちょっと根本的な部分で考えていかなければいけないのではないかなというのが私の感想ではあります。

だからといっていい考えがあると言われると、そこもなかなか難しいところなのですけれども、わかりました。

それともう1点なのですけれども、雇用のところで企業誘致件数は2件ということで、バイオマス発電が今回誘致できたということで、雇用実績は30年度末から計上されるということなのですけれども、どれぐらい見込みがあるのかというのはわかっていられないのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 今、聞き取りをしていてですね、お聞きしている数値ですので正式なものではないですが、参考までにお話をさせていただきたいと思っております。

28年度に工場の増設を行いましたNGKにつきましては、現在10人の雇用をしており、来年度も雇用を増加するということをご予定として聞いております。

次に、バイオマス発電所ですが、現在5人の雇用

があるというふうにお聞きしております。

いずれにしても30年度の雇用数として、新たにカウントされる見通しとなっております。

○永本浩子委員 NGKは10人で、バイオは5人というのが今見込まれているということで、そうすると雇用の創出の方の数値的には、その数値が反映されるのは雇用数、目標は20人ということだったので、15人でかなり目標には近づくという捉え方ということでよろしかったでしょうか。

○秋葉企画調整課長 今現在の情報ですので、数値に置き換わったわけではないのですが、見通し的には今委員の御指摘のとおりでございます。

○永本浩子委員 了解いたしました。

あと、空き家バンクのほうなのですけれども、23件に減ったということですが、これが減ったのは実際にその売買とか動きがあったからということだったので、捉え方としてはそれだけ成果が出ているということで、プラスに考えていいということだと思うのですけれども、目標値が10件ということで、これも登録があった中で売買とかそういったものが実際に動きが出て、その最終として10件残ると言ったらおかしいですけども、そういう捉え方の目標ということによかったのでしょうか。

○秋葉企画調整課長 まず、その空き家バンクという制度をつくってですね、その登録数をまず10件にしましょうというのが目標でございます。

現状としては、宅建協会などに協力いただいて、それぞれ情報提供していただいていますので、その件数が23件というところになりまして、前年よりは減ったのですが、当然、売買流通しておりますので、売ればその情報がなくなるということで今回23件です。

ですから、空き家バンクとしては、既に目標を超える登録をいただいているというのが状況でございます。

○永本浩子委員 ということは、きちんと目標よりも先じて成果が出せているということで、この点に関してはとてもいい結果が出ているというふうに捉えていいということでよろしかったですか。

○秋葉企画調整課長 なかなか、いかどうかは、ちょっと私の方からは申し上げにくいのですが、基準値を上回る登録件数があるという状況でございます。

○永本浩子委員 了解いたしました。

○松浦敏司委員 全体として、なかなか目標値には

相当開きのあるものも多くあるというふうな印象であります。

日本の国というのは、非常に世界の先進国の中でも東京一極集中というのは珍しいといえますかね、ここまで極端にあらわれる国というのはないのですよね。それは結局、国の政策で、どうしても地方の自治体、地方の住民は影響を受けますから、そういった中で国の政策に大きな影響を受けているせいでろうというふうには思っております。

それで先ほど来、中心市街地の関係が出て、お話がありましたけれども、相当の開きといいますか、減少があります。人通りがないというのは、特に私の印象ではラルズがあるところは、そこそこ買い物客で人が通っていた。しかし、ラルズがなくなった後、極端に通行量、人の動きが減ってしまったというふうに感じているところです。

例えば最近でいうと、四条にある100円ショップで何か売り出しをすると、高齢者なんかも含めてすごい人が集まる。それからイベントをやれば、こんなにたくさんの網走市民がいるのかというぐらい人が集まる。

しかし、なかなかそれが通常、あるいは休日に魅力のあるものがないためか、人通りが非常に少ないということです。

だから、そういう意味では、人が集まるような魅力ある中心市街地になっていないというふうには、私なんか印象を持っているのですけれども、その点でどんなお考えをお持ちでしょうか。

○秋葉企画調整課長 おっしゃるとおりですね、一つはイベントを開催して、にぎわいを創出することがまずは大事だと思いますし、そのほか、今、市で進めているのは町なか居住ということで、町なかに住む方をふやすという取り組み、それから現在、四条では主にまちづくり会社が、いろんな講座やイベントをみずから行っておりますので、そうしたイベントなり、まちづくり会社なり、町なか居住という視点で引き続き取り組んでいきたいというふうを考えております。

○松浦敏司委員 なかなかいい名案も、私自身もあるわけではないのですけれども、やはり魅力ある中心市街地というのをつくっていくのが難しいのかなというふうには思っています。

あと実は、私は今、アンケート調査をやっているのですけれども、その中にはここにもあります合宿参加人数の文化という項目もあります。

その芸術文化の取り組みをもっと多くやるべきだという声が、結構あるのです。

そういう意味では確かに他の自治体なんかでも、相当、積極的に芸術文化の活動を取り組んでいるところは、近隣の町にもあるという印象を受けていて、やはりこの辺での取り組みをもっと積極的に行う必要があるのかなというふうにも思うのですが、その点ではどのようなお考えでしょうか。

○秋葉企画調整課長 委員おっしゃるとおり、芸術・文化事業につきましても取り組んでいないわけではないのですが、やはりなかなかスポーツとは違ってですね、気候のメリットですとか施設のメリットをなかなか出せないでいるということがあります。

ただ、社会教育におきましても実行委員会を組織しまして、プラスバンドをメインに来ていただくような取り組み、それからエコーセンターにも絵が飾ってありましたが、ああいう芸術・美術を施設に飾ったりする取り組みも進めているところでもありますので、引き続き定着するように努力していきたいというふうに考えております。

○松浦敏司委員 例えば、芸術・文化の関係でいうと、近隣のいろんな芸術・文化もありますけども、やはり東京とか、そういった大きなところでやっている演劇だとか、さまざまな芸術活動があるのですけれども、いざ呼ぶとなると、大変な金額がかかって簡単には取り組めないし、そして人口的にも網走だと少ない中で成功させるという点では、やっぱり自治体の支援がないとなかなか大変だというのも、取り組む上で一つの障害になっているというふうに私も聞いています。

そういう点でも、今後の取り組みとして重要なことかなというふうに思います。

それと、2ページの特殊出生率ですが、これが上がっているというのは、非常に今後の希望につながるのだと思います。

そういう意味では、いろんな要因があるのだろうと思いますが、以前よりは子供を産み育てやすい環境が整いつつあると、前進しているのかなというふうに思います。

確かに、子育て世代に対して、医療費を1割負担に軽減するとか、この間、さまざまな取り組みをしてきた中で一定の評価もあるのかなというふうに思うのですが、その点ではどんな見解をお持ちなのか伺います。

○秋葉企画調整課長 大変、数字として上がるということは、喜ばしいことだというふうに認識しております。

ただ、4万弱の人口の分母に対して、この数字がどうなのかというのは、ちょっとなかなかですね、手を挙げて喜んでいい数値かどうかというのが、なかなか判断ができないところが実状としてございます。

いずれにしても、まずは病院があること。

それから、今取り組んでいるように、子育て世帯が1人ではなくて、2人、3人目と望む形をなんとか経済的な支援も含めて、そうした地域として子育てがしやすいまちづくりを進めることが、何よりも重要であるというふうに認識しております。

○松浦敏司委員 人口ふえる上では、2人以上産まない人口はふえないというのは、それはもう当然なこと、国も当面、1.7とかというような数字もあるとは思いますが、いずれにしても、今の出生率では全国的にもこの網走でも、なかなか人口がふえる要素がない、自然減のほうが多く出てきてしまうというふうにありますので、そういう意味では、いろいろな子供を産み育てる環境を整えることが大事かなというふうに思うところであります。

あともう一つ、3ページ目の特定健診の関係で、これも目標値からすると相当ほど遠い状況。

一時的に上がったかもしれないですけども、なかなか上がらないということで、全国平均にも相当開きがあるという点で、これは何かもっと努力をすべきだなというふうに思います。

担当課ではないので、なかなか答えは難しいと思うのですが、やはり新たな取り組みというのもしていかないと、これは伸びないのではないかなというふうに思うのですけどいかがですか。

○秋葉企画調整課長 今、御指摘の受診率につきましては、減少傾向にあるということを十分認識しておりますので、今後、予算編成も控えておりますので、受診率の向上に向けて取り組みができることについて検討していきたいと。

できることがあれば、新たな予算、来年度の予算で取り組んでいきたいというふうに考えております。

○金兵智則委員 細かい一つ一つの項目につきましては、さきの決算特別委員会で各課に聞かせていただいていますので、その辺は理解しているところかなというふうに思うのですけれども、平成29年度と

いうことで、平成27年度から31年までの5カ年計画の3年目が終わったというような状況かなというふうに思います。

昨年度も同じような質問をさせてもらっているのですが、昨年度はまだ2年目なのでというようなことでしたけど、とりあえず半分過ぎて5年後の目標値がある中で、平成29年度はどのような評価をされるのかお伺いしたいというふうに思います。

○秋葉企画調整課長 総括的なお話をさせていただきますと、やはりなかなか進捗しない、効果が出ないというところも実態としてあるということと、目標の設定もですね、やはり何がいいのかというのが、やはりこのKPIの達成、KPIにおいて取り組むというのは非常に難しいことだなというのが実感としてあります。

いずれにしても取り組むことが大事だということで、より効果的な手段を選んで取り組むことが大事だという認識が十分ありますので、この総合戦略につきましても、来年度以降になると思うのですが、国・地方あわせて達成状況の確認をしながら、次期、第2期になるのかもしれませんが、総合戦略の策定、取り組みに移っていくという大きな方向性がありますので、その中でさまざまな検証をしながら、引き続き取り組んでいくことが、まずは何よりも重要だというふうに認識をしております。

○金兵智則委員 理解をさせていただきたいというふうに思います。

引き続き検証しながら、新たな計画という形になるのかどうかという形だと思いますけれども、とは言え、この5年間の目標値はもう既に定められていますし、継続して取り組んでいく中で、達成はしないにしても、やはり継続して取り組んでいくからには数値を上げていく必要があるという中で、もう今は平成30年度です。

4年目が続いていく中で、来年度が最終年ということで、やはりより数値が遠いものに関しては近づけていく、達成できそうなものに対しては達成していくというような考えは、お変わりにはならないのかなというふうに思いますので、そういった方向性を説明していかなければいけないというふうに思いますけれども、31年度に向けて、最終年に向けて、どのように取り組まれていくのかお伺いしたいというふうに思います。

○秋葉企画調整課長 例えば、今話題になりました中心市街地の通行量がですね、これが到底その目標

値にV字でというような手段は、実際はないというのが実情でございます。

ただ、そうしたKPIの達成を目標に取り組むことが当然、必要だというふうに考えておりますので、予算編成を通じてKPIの達成状況を踏まえながら、新しい手段はないのか、少しでも成果を上げる手法はないのか、さまざまな各部とも検討しながら引き続き予算編成をめぐりまして、また取り組んでいきたいというふうに考えています。

○平賀貴幸委員長 次、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

それでは、網走市まち・ひと・しごと総合戦略におけるKPIの達成事業についての推移については、ここまでとさせていただきます。

○平賀貴幸委員長 続いて地方創生総合戦略検討特別委員会の最終報告についてであります。

ここで暫時休憩します。

午前10時40分休憩

午前10時42分再開

○平賀貴幸委員長 再開をいたします。

それでは、地方創生総合戦略検討特別委員会の最終報告について各委員からの発言を求めます。

○近藤憲治委員 平成27年度から3ヶ年にわたって取り進められてきました総合戦略につきまして、当委員会でも議論をさせていただきました。

まだ5年間のうちの3年間ということなので、その最終的な結果と、その効果というのを明確に議論するのはなかなか難しいところでもありますけれども、やはりその大目標である人口減少の抑制というものが達成されるべく、今後も着実に進めていっていただきたいというところでございます。

ただそうは言っても、その4年目になる平成30年というのはですね、例えば消費税の10%化でありますとか、働き方改革の本格導入でありますとか、オリンピック・パラリンピック需要の終了とか、さまざまなインパクトが想定される年であります。

そういったハードル等々も勘案しながら、積極的に進めていっていただきたいというふうに思いますし、3年間議論させていただきましたけれども、ここにつながっている項目が、その人口減少の抑制に対して全ての手法なのかといたら、そうではないというふうに考えていまして、やはりこの3年間の間でまた見えてきたさまざまな手法、例えばそのICT

の活用による生産性の向上でありますとか、またその域内循環ですね、資本の域内循環の度合いをどう見るかでありますとか、そういった指標もですね、今後は織り込んでいながら、進めていく必要があるのかなというふうに思っています。

あと最後に、その1年目に今御指摘をさせていただいた、やはりこの総合戦略というのは、市役所がやるというものだけではないだろうというふうに考えていまして、やはりその市民が一体となって目標達成に向かっていくという機運の醸成というのが不可欠なのですけれども、その部分についても意を用いて進めていくことが必要であるというふうに考えております。

以上でございます。

○松浦敏司委員 今、近藤委員から話があったように、5年の中の3年間、29年度までと。

しかし、実際にはもう30年度は、もう間もなく終わる状況になってきているという中で、現段階で目標値に達しているところもありますけれども、多くのところでは相当開きがあるという点で、今後に期待せざるを得ないんですが、そうそう簡単なものではないというふうにも思います。

特に少子化という点では、これは相当困難を来しているということで、そういう点ではなかなか厳しい状況かなというふうにも思います。

ただ、あくまでもこういう総合戦略ということでその目標に向かって、努力をするという点では必要なことではあるというふうには思います。

国が主導して、こういう地方創生ということで始まったものでありますけれども、今後、しっかり努力をしていく、その中間点だというふうにも私は捉えているところでありまして、今後もしっかりやっていく必要があるのかなという思いであります。

以上です。

○永本浩子委員 まだ、中間の時点の数字までしか出ていないわけですが、現実にはなかなか目標達成には厳しい部分もあるかと思っておりますけれども、ただやはり具体的に手を打ってきた部分に関しては、成果が見えている面もあるのではないかなとも思っております。

例えば、先ほどの観光客の入り込みに対しまして、網走監獄の数が伸びたというのも、多分これはゴールデンカムイの企画を打って、その登場人物の衣装を着たりとかというのができるということで、かなり親子連れが多く訪れたとか、そういったこと

もちゃんと数値としては、あらわれてくるのではないかと思います。

これからも来年度の予算編成に向けて、具体的なことも検討していきたいというお話がありましたけれども、空き家バンクの利活用に関しても、若い世代の方たちに対する施策として、具体的に今後やっていくことになるわけで、そういったものが着実に浸透して具体的に利活用していく人がふえていくということは、やはり大事だと思いますので、そういった政策をきちんと市民の皆さんにわかっていただいて、ぜひそれを活用していただくところにも、ぜひ努力をしながらやっていただきたいと思います。

以上です。

○金兵智則委員 5年計画の3年目までが終了したというところであります。

この総合戦略の策定に当たっても、本当にその人口減少対策に向けてこの事業でよかったのか、それに向けてこの目標値でよかったのかというのも、その設定のところから、まづもって難しかったのかなというような感じもします。

とはいえ、目標値を設定されて、それに向かって事業を進めていったということも理解をさせていただきますが、やはり目標値に遠く及ばない事業も多々あるというところであります。

継続している事業の中には、本当にこの目標値に向かってその事業を行っているのかという疑問に思うものもありますけれども、継続して行うということが大事だというのもわかりますけれども、やはり一つ一つ定められた目標値に向けて、施策も変化をさせていかなきゃいけないというのも考えていく必要があったのかなというふうにも、まだ3年目ですので、この後急激に目標値に近づく、達成するものもしかすると出てくるかもしれませんが、この3年間を見せていただく限り精査・検証という部分も、ちょっと甘い部分もあったのではないかなというふうには理解します。

ただ、今後も継続していかなきゃいけない、必要な施策であるというふうにも思いますので、その部分を意識しながら今後も継続して積極的に行っているようにしていきたいなというふうに思います。

以上です。

○栗田政男委員 各委員から意見が出ていましたように、私も同様の意見を持っています。

ただ、今までこの総合戦略ということに関して、何の一定の数値もなかった状態の中から、こういう

ふうに出たということは、まずは議論のたたき台が一つでき上がったという意味では、僕はかなり価値のあるものではなかったのかなというふうに思います。

その中で、それぞれ近藤委員からも出ていましたが、役所がやることなのかという部分と民間がやる部分との、どこを役割分担しながらやっていくのかというのは非常に大きな問題でして、やはり行政側がやれることというのは、おのずと限られた部分でしかないでしょうし、いろんな企画、予算づけをしても、結局は市民の皆さんがそれを利用して活用して、商取引をしていただかないと何もならないというのが現実だと思います。

ただ人が集まってイベントをやって、人が中心市街地に集まったからといって、そこで商業的な動きが何もなければ、それは単なる人集めでイベントであって、別に四条でなくても郊外地域でもいいでしょうし、港でやっても同じことが行われるということなので、やはりその辺がしっかりとした定義づけが必要でしょうし、何のためにやるのかということを薄れないような方向性というのは、しっかりとつくっていかなくちゃいけないのかなというふうに思っています。

観光については、いろんな意見も見解もあろうかと思いますが、ことしのように、地震があることによって海外からのお客さんがガクッと減るような突発的なことも想定しなくてはならない時代が来ていると思います。

そういう意味から、何をしたら得策か何をやったら確実に成果が出るのかというのは、これは答えはなかなかでないのかなと。

これは各皆さんの意見の中にも出ていましたけれども、やはり基本的なことをこつこつとベースをしっかりとやっていかないと、サービスというものを、これは何度もいろんな場面でお話をしていますけれども、やっていかない限り、最終的に観光事業の底上げにはつながらないのではないかなという気がします。

それは意見として述べさせていただきます。

日体大とかいろんな意見もありましたが、まだやはり形に見えてこない部分が多いかと思いますが、形としてつくったものは、必ず成果を出していかないと僕はだめだと思っています。

必ず形にするように必要な努力を進めていく、つくったから終わりではなくて、これからどういう熟

成の段階に入っていくかというのが非常に大切なことではないかと思しますので、今後に期待をしながら、また民間ベースのよりよい動きが必要なのかなという気がしています。

以上です。

○立崎聡一委員 5年中の3年が経過しまして、実質30年度も半分ぐらいは過ぎたのかなというふうに思います。

この間、各委員からもお話があったとおり、やはりなかなか厳しいものもあるというのは現実なのだろうなというふうに思います。

先ほど来、よく話に出ています行政主導と民間主導というのがあると思います。

民間はきちっと頑張っていただかないと、このひと・まち・しごと創生総合戦略というのは、成り立たない部分が多いのではないかなというふうに思います。

やはり、市民にいかにかような内容のことをやっているのだよというのが、きちっと理解してもらえて、もちろん行政主導でやっている部分については、かなりの成果が上がっているのだろうなというふうに僕は見ました。

そこら辺の部分がなかなか難しいのだろうと、今後残りの2年間を考えると、そこは難しいのだろうなというふうに思います。

いずれにせよ、こういう特別委員会を立ち上げてまでやっていることですから、残り2年間しっかりと取り組んでいただきたいし、私たちもそれに向けて市民にもアピールしていきたいなというふうに思います。

今後の2年間を期待したいというふうに思います。

以上です。

○山田庫司郎委員 冒頭、秋葉課長からのお話もあったように、KPIの目標値も含めてですが、東京一極をやっぴり緩和して地方に力をつけていこうという、こういう趣旨で国が進めてきたということが一つの流れでありますけれども、それを受けて網走市としても、まち・ひと・しごとという、本当にこの大事な3点を中心に目標値を掲げてですね、3年間進んできたわけですけども、国の動きからすれば、やはり地方分権がなかなか進んでいない。

いわゆる地方への権限移譲が、やはり予定をしていた、思っていた以上に進んでいないというのも背景にはあるのかなというのの一つありますけれど

も、いずれにしても、東京一極集中が先ほどのお話でも、逆にふえているという実情もあるわけでありまして、これからはオリンピック、また大阪も万博ということも一つあるわけで、逆に中央にまた集中していく、いろんな要素がまた出てくる可能性がありますから、地方にとっては、また大変厳しい時代を迎える可能性もないわけではありません。

それで、今回のこのまち・ひと・しごとの総合戦略ですが、2040年には3万2,900人の人口をやっぱり確保して守っていきたいというのが大きなネックになって、それぞれの分野での目標値を立てて動いてきているわけです。

それで、総花的に全ての分の目標値が達成されればすばらしいことですが、かなり厳しい状況はあるのだろうと。

努力はしていかなければなりません。

ただ、私としてですね、先ほども近藤委員からもちょっとあったのですが、人口をやっぱりある程度守っていくという視点は、自然減と社会減、そのような理由が一つあるわけですが、お年寄りはやっぱり健康で長生きしてもらおうという視点と、やっぱり子供や、これから生まれるべくお子さんの数、そして生まれた子供の子育てに対するやっぱりそういうことも含めて、ある程度目標値全体的にいろんな数がありますけれども、特にやっぱりその中でも特化してですね、取り組むべき課題というのもちょっと後半の2年では整理する必要もあるかなと。

例えば、特定健診の受診率が上がらないという問題も一つあるわけですが、これはやはりしっかり受けていただくことによって、健康な市民ということが基礎になりますから、そういう意味では努力されているのだと思いますが、町内会やいろんな団体等に対し、ぜひ受けるように声かけも含めて、これはやはり市長がトップになってやっぱりいくぐらいの気持ちも、持って臨むことも一つなのかなと、こんなふうにもちょっと思っていることもございます。

いずれにしても、ここ10年ぐらいの間に3,000人以上の人口が減っているのかなと僕自身思っています、2040年の3万2,900人となりますと、あと20何年ありますけれども、三千何百人をどう抑えていくか、やはりここが大きな目標なるというふうに思います。

減らさない、人を呼んでふやすという視点と、ここでやっぱりとめるという両方の戦略、その総合戦略の中で持ってるわけですから、両面を持ちなが

ら、まず向こう2年間の中で目標指針を目指して頑張ってもらって、できれば特化するようなことも考えていくべきかなと思います。

それと、これはできないことなのかもしれませんが、僕も途中から委員になっていて申しわけないのですが、目標値の見直しというのも背景が変わったからすることができるのか、背景いろいろ変わってきていると思いますし、目標値というのはちょっと動く可能性も3年、実際は30年が過ぎるわけですから、27、28、29、30年、4年終わることにもなるとは思いますけど、あと1年ですからいじることはないのかもしれませんが、もう1回、ちょっと1回見直してみるのも大事なのかなと思いますというふうに思います。

いずれにしても、あと2年と言ってますが、実際1年です。

30年がもうちょっとしたら終わるわけですから、31年度で5年になるのでしょうか、だから、一連の中で先ほどから出ているように、官ばかりではできないということも一理ありますから、民の方の力も借りたり、多くの市民の皆さんも協力をいただいて、この総合戦略の目標値に向けて市民一丸となって取り組んでいくような一つのシステムづくりも必要なというふうに思いますので、1年しかありませんが議会も含めて頑張っていかなければならないというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○井戸達也副委員長 それぞれ皆さんから、いろんな御感想・意見等をいただきましたけれども、全体的に見ますと取り組みはなされていながらですね、なかなか目標値に達成できなかったところも、当然見られるわけでございますけれども、選択する未来会議での質疑もそれぞれ出ておりますけれども、ここに限らず、やはりまちが一丸となって取り組むことの一つだというふうに私も考えております。

どうかですね、この方向に網走は向かって行く、行かなければ、まちが存続できないというぐらいのですね、危機感を市民、まち全体がそんな意識を持つことがまず大事なのかなというふうに思います。

数値的にはですね、いろいろと成果が出ているものと厳しいものとございますけれども、これはこれとしてですね、まず意識としてそういう意識を持っていけるかっていう部分が一つの大きな課題だとい

うふうに思いますので、そういう方向に向かって努力していただきたいというふうに思います。

以上です。

○平賀貴幸委員長 各委員から御発言いただきましたので、最後に私からも一言申し上げたいと思います。

議論を積み重ねてくる中で、いろいろなものが見えてきたなというふうに私も思っております。

各委員から御発言があったとおり、項目や数値の選定がこれで内容も含め適切だったかどうかというのも積み重ねていく中で、いろいろ見えてきたものがあるのだと思います。

残りまだ実質1年ありますけれども、こういった積み重ねを通じながらですね、いろいろ議論が積み重ねてきたことを参考にしながら、新たな計画づくりの際、32年からですけれども検討していく中に、市のほうでは是非活かしていただきたいなというふうに思うのがまず1点であります。

またもう1点としては、やはり人口減少をどう食い止めるんだというところが、各委員ももちろんそうですし、理事者もそうですし、網走の市民にとってもこれは共通の課題であり、考えなければいけない最大のものであります。

それに対して果たして効果的だったのかということころは、やはりもう一回考えていかなければいけないなというふうに思いますし、そういった視点で考えると、果たして、どの世代に向けた施策に力点を置かなければいけないかということは、またおのずと出てくるのだろうというふうに思いますので、そういったことを含めてですね、今後も引き続き検討しながら、見直しも適時進めていただくことが必要なのだろうということを、これまで議論で感じたところでありますので、申し上げておきたいというふうに思います。

その他、各委員の皆さんから何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

理事者のほうからは何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上をもちまして地方創生総合戦略検討特別委員会のほうは終了させていただきます。

今期の地方創生総合戦略の特別委員会は、基本的なきょうを持って終了ということになるんだというふうに思います。

これまでいろんな形で御協力いただいたことに改

めて感謝を申し上げます。

今後も、この計画自体は進んできますので、状況が何かあれば、また開く可能性はありますが基本的にはきょうが最後となりますので、ご挨拶だけさせていただきますと思います。

皆さんに御協力をいただいたこと、感謝申し上げます。

ありがとうございました。

午前11時02分閉会